
幸せ理論

伊織

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せ理論

【Nコード】

N7210P

【作者名】

伊織

【あらすじ】

主人公、篠原明子は、どこにでもいる普通の高校生。何の変哲もない毎日を送っていた時、ある落書きを目にする。それは『7月14日僕は死にました』という奇妙だが、死というものに敏感な明子にとってとても興味深いものであった。

死と葛藤し、生きる事に悩む少女少女の話。

落書き

『7月14日、僕は死にました』

それは夏休み間近のことだった。

気温、36度という猛暑日の中、私達学生はクーラー一つついていない教室でいつものように授業を受けていた。窓ガラス全開だというにもかかわらず、風が全く通らない教室では、じめじめとした暑さが教室を支配している。おまけに外では蝉達がミンミンとしきりに鳴いているものだから、余計に教室の温度は上がっていく気さえた。せっかくの自習の時間だというのに普段の騒がしい教室の面影など全くない。生徒達はこの暑さのせいか下敷きで扇ぐのに夢中になっており、無論、ペンを動かす音もしないのだが、教室は蝉の鳴き声だけが響き渡っていた。

私は最近つくづく思う。もしも私がこんな田舎の公立の高校に通うのではなく、都会の私立校に通っていたなら。夏も冬も温度調節の設備が万全で、快適に授業を受ける事が出来ていたならば私はもっと違っていただろう。長い休暇の度に出される宿題だってすぐに片付けてしまうことが出来ただろうし、模試の結果だってもっと良かったはずだ。自分の家の経済状況からしてそんな事は全くもって無理な話ではあるが、将来のことを煩くいうわりにはそういう気遣いには随分と消極的である。まあそれが大人というものだから仕方がない。

私は見もしない教科書を適当に1ページちらりと開ける。きつと一学期の最初に授業を受けていたところに違いないが、私の記憶にはそんなものの欠片も残ってはいない。ずらりと並べられた小さな文字達、黒字で濃く書かれた重要部分、ある程度文字の下に蛍光色のペンで線は引いてあるのだから、過去の私はやはりやったのだろう。きつと、未来の私のために。だんだんとページをめくっていけば面白い程にそれは新品さながらの教科書のようにであった。教科書のページの端の折った跡はなくなり、線さえも書いてない、そのページを見たという証が下手くそな落書きへと変わっていく。私は悪い子だ。そして今、何も書いてはない、つまらない真っ白な教科書になってしまった。

落書きもこれで終わりか。私はため息1つする事なく、顔を起き上がらせる。何となく頬杖をついて、視線を辺りに配らせる。特に意味はなかったが、そんな時私の視線はある一定の場所に定められた。

普段なら目もくれないただの落書きであった。それは机の片隅に綺麗な達筆の字で書かれていた。『7月14日、僕は死にました』一体いつ頃書いたのであろう。それは鉛筆で書いたせいか滲んでしまい薄くなっている。指で軽く擦ってしまえばすぐに消えてしまいそうな位だったが、なぜかそれは極印のように私にその行為をさせる事を拒んだ。まるで彫刻刀で深く深く刻んだかのように、痛々しくもしかし興味のあるものであった。

この位の年齢の生き物は死というものに酷く敏感である。最も生命の活力に溢れ、死という存在に遠くあるかのように見えて、本当はいつも死の影が常に垣間見えている。生きる事を望めば望む程、死

は近くなり、現実には落胆するのだ。

私は至って常人、一般People。だから、死というものにとっても興味がある、もちろん生きる事にも。だから、それはとてもななく魅惑的な物産であり、悪い興味が湧いてきてしまうのだ。おまけに、誰が書いたかわからないこの机の落書き、他人事ならば余計に面白い。私はその下に小さく返事を書いた。

『どうしてあなたは死んだのですか？』

返事を期待してはいなかった。たまたま移動教室の授業で見つけた、何人使っているかなんてわからない机に書いてあった落書きだ。どうせふざけて書いたものに間違いないだろうし、他の誰かが消してしまうかもしれない。

だけど、ただ少しだけ、この落書きがどうなるか、私には興味があった。だからどんな結果になっていようとも私はそれを素直に受け止めてみようと思っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7210p/>

幸せ理論

2011年1月8日21時48分発行